

「持続可能な地域と金融を考えるセミナー」を開催しました



当協会では、令和5年2月6日（月）に一般社団法人岩手県銀行協会様と共催で「持続可能な地域と金融を考えるセミナー」を開催しました。

本セミナーは、ゼロゼロ融資の返済本格化を前に、コロナ禍や原材料高等で厳しい経営環境におかれた中小企業への支援を拡充させることを目指し、支援機関の知識を深め、連携した支援体制構築の機運を高めることを目的に開催しました。

今回は金融機関と支援機関向けのセミナーということで、一般参加の募集は行いませんでしたが、県内金融機関や県内外の支援機関、保証協会等から当初定員を上回る約220名にご参加いただきました。

第一部では、金融庁監督局の新発田龍史参事官から「いわての未来のために、いま地域金融機関に期待すること」と題し基調講演をしていただきました。講演では、ゼロゼロ融資の返済が本格化するのを前に地域金融機関の存在意義が問われており、動かないこと自体がリスクであること、変革の主体はあくまで一人ひとりの個人であり、変革を自分事として実行していくことの必要性などについて、最近の金融情勢等も織り交ぜながらお話いただきました。

第二部では、「今、求められる中小企業支援」と題して、北門信用金庫企業支援室の伊藤貢作室長と共同通信社の橋本卓典編集委員によるトークセッションを開催しました。業種別の着眼点や経営者と金融機関の考え方の違いなどについて、橋本氏のポイントを突いた問いかけに、伊藤氏が実践経験に裏打ちされた話で応じながらテンポよく進められました。実務に立脚し経営者の視点を踏まえた伊藤氏と長年地域金融を鋭い視点で見つめてきた橋本氏との歯に衣着せぬ議論は、金融機関や支援機関の固定観念を払拭するような刺激的な内容もありましたが、それゆえに心に刺さる実践的で説得力のあるものでした。

ご参加いただいた皆さまからは、「目からウロコが落ちた」「刺激が強かったが経営者と対話する際の参考になった」「もっと詳しく聞きたい」等のご感想をいただきました。

今回のセミナーが、参加した金融機関や支援機関が組織を超えて連携して地域を盛り上げていく動きを加速させるきっかけとなることを期待し、当協会としても企業支援を自分事として取組んでいく契機にしたいと考えております。

【 第一部 】



新発田参事官

【 第二部 】



伊藤室長



橋本編集委員